

事業名

地域資源活用型ビジネスを生み出す、環境配慮型ライフスタイル推進事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200字以上～300字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>■平成23年度■</p> <p>①環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施（第一期） 目標：延べ参加者数 30名 ▶達成：179名△</p> <p>②環境資源活用ライフスタイルカタログ作成 目標：300部配布 ▶達成：2冊で計約1,000部△</p> <p>③環境資源活用起業塾第一次実験プログラムの実施 目標：延べ参加者数 90名、実施回数 6回 ▶達成：延べ参加者数 89名、実施回数 6回▼</p> <p>④環境資源活用起業支援Web立ち上げ 目標：PV/d 100（平成23年度末） ▶達成：WEB:PV/d 30 Facebook・動画:1700 PV/4ヶ月（平成23年度末）▼</p> <p>⑤地域間交流事業の枠組みづくり 目標：延べ参加者数 30名、実施回数 2回 ▶達成：延べ参加者数 35名、実施回数 2回△</p> <p>■平成24年度■</p> <p>①環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施（第二期） 目標：延べ参加者数 300名 ▶達成：394名△</p> <p>②環境資源活用リーダーを育てる地域間交流テストプログラムの実施 目標：延べ参加者数 60名 実施回数 4回 ▶達成：延べ参加者数 65名、実施回数 4回（調査・打合せ含む）△</p> <p>③環境資源活用起業塾第2次プロトタイププログラムの実施 目標：延べ参加者数 360名 実施回数 24回 ▶達成：延べ参加者数 64名、実施回数 3回▼</p> <p>④地域の環境資源NEWS-WEBの立ち上げ 目標：150記事アップ、PV/d 300 ▶達成：実施せず ▼</p> <p style="text-align: right;">目標達成：5 目標未達成：4</p>	3
2	市民性	<p>本事業では、環境教育に関わるプログラムを、専門のコンサルティング等に頼らず、市民で企画・運営・広報・冊子/WEBサイトの制作を自発的に行ったので、非常に市民性の高いプログラムと言える。</p> <p>【課題】ただしこのような事業が可能だったのは、小金井及び周辺地域に専門技能・知識を有した市民が多数住んでおり、かつ環境活動をすでに行なっていた市民団体が複数あったことによる。このような例は一般的ではない可能性があるため、他地域で実施する場合は、外部からの専門家・コンサルティングが必要であるかもしれない。</p>	4
3	波及効果	<p>まず、①の共同研究、③の起業塾のプログラムに多数の市民、NPO 団体、自治体や企業の職員が参加し、さらに本事業のプログラムの多くを実施した環境配慮住宅型研修施設がカフェ及び多目的スペースとしての運営をしていたこともあって、地域内および、環境に関わる諸問題に興味のある全国の市民への認知度が高まった。新聞社、雑誌社、テレビ局等から多数の取材があり、メディアへの波及もあった。</p>	3

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

4	継続性	<p>事業期間中、協議体間の連携や協働、事務局運営が円滑に機能しなかった面があり、今後継続的な活動を行うに当たっては、検討課題となっている。環境配慮住宅型研修施設については、市民・地元事業者等からの関心が非常に高いことから、当該施設が今後も有効に活用されるためにも、行政及び市民・事業者等が引き続き連携・協働を模索していくことは重要と考えられる。既に本事業に参加した市民及び NPO 団体等の自発的なネットワークによるプログラムの企画・検討が進んでいる。</p>	2
5	マルチステークホルダー・プロセス	<p>① 市民共同研究における大学及び諸研究機関と市民団体の連携、②の地域間交流における官城との共同プログラム、③の起業塾における企業・自営業者との連携など、様々な種類のステークホルダーと協働して事業を行うことができた。</p> <p>【課題】 商工会・JA など、地域産業に関わる組織との連携をさらに強めることができたならなお効果的であったといえる。</p>	3

合計点

15

ランク

B